

菅義偉総理の自民党総裁任期満了にともなう総裁選挙は17日告示され、届け出順に河野太郎(58)、岸田文雄(64)、高市早苗(60)、野田聖子(61)の各氏が立候補、29日投票の日程で実施されている。党所属衆参国會議員一人1票の383票と110万を超える党員・党友383票の計766票で争い、一回目の投票で誰も有効票の過半数を得なければ、上位二人の決戦投票で総裁が決まり、実質的に第10代日本国首相が選出されることになる。

菅総理は正しい判断をした。総裁選出馬の意思を表明していた菅氏が9月3日突然、立候補取り止めの発表、党と国民に大きな衝撃を与えた。菅内閣は7月、8月と支持率を上げており、30%を割る世論調査も出る始末。年内の総選挙に向け、野党連携による憲政史上初の共産党与党政権誕生まで危ぶまれる情勢にあった。

とりわけ安倍晋三前首相人気によって当選してきたとされる3年生以下の若手議員たちには、「選挙の顔が不人気の菅首相では自身の再選ができなくなる」との動揺が走っていた。菅氏の不出馬発表で、半年先の経済状況を先取りするといわれる株式市場は、現金にも一気に500円以上値を上げた。

これにより少なくとも2人の候補が決定的影響を受けた。1人は河野氏である。それまで現役閣僚であるために、現役総理に対して反旗は翻せないと出馬困難状態にあったのが一転、出馬可能となった。もう1人が高市氏。高市氏は、8月10日発売の月刊誌『文藝春秋』に「総裁選に出馬します」と題する論文を掲載し、実質的な出馬

## 自民党総裁選



共同記者会見に臨む4人の候補者。17日、東京都千代田区の自民党本部で

# 高市氏 女性初首相へ急加速

## 危機の時代のゲームチェンジャー

軍事の両面が含まれる。日本人にとって、日本が開発した先進技術で、外国から武力攻撃の危険にさらされることほど不条理はない。外国とは、中国である。日本は、中国の軍事大学などから留学生を招き、大学や各種研究所で学ばせ、軍事的にも経済的にもきわめて貴重な機微技術をやすやすと持ち帰らせてしまう。日本は民生技術として研究開発するが、中国はそれを軍事技術にも転用するからその損害とリスクはあまりにも大きい。

最近話題となった「極」超音速滑空ミサイルはその典型だ。「極」というのはマッハ10にもなる超音速で、滑空というのは超低空で曲がりくねりながら飛ぶから、レーダーにはかからないし、イージスといっても迎撃のしようがない。目標に設定されて発射されたならばその都市は確実に壊滅する。そのミサイルの外殻を作っているのが日本原産技術の耐熱素材で、これは典型的な経済安全保障問題の一つである。

また、「日本経済強靱化計画」では、高度な防衛をしながら経済的にも豊かになるという視点を与えてくれた。

こうした高市氏の助走の中、9月3日の突然の菅首相の不出馬宣言に一早く反応したのが、安倍前首相である。すぐに「高市早苗支持」を明確に打ち出した。これが菅首相の「正しい判断」の理由である。安倍氏は堂々と高市氏の応援団長になることができ、「総裁選勝ち抜こう」と激励の言葉を送った。さらには今、派閥をまたいで、有力な議員が高市氏支持を全力で訴えている。これにより高市氏の知名度も存在感もぐっと高まった。

これで高市氏の人気上昇を見てとった他候補は、その政策や言動を高市氏に寄せ始めるという現象が起こり、日本のあらゆるリスクに対し明確な経済安全保障政策を打ち出す高市氏は、危機の時代のゲームチェンジャーとなった。

これを際立たせたのが、8日の出馬会見であった。高市氏は冒頭、高らかに「私は国の究極の使命は、

動ける法整備など環境確立、⑤敵基地を一瞬も早く無力化できる法整備」などと矢継ぎ早に話した。また皇室皇統問題では男系一系のみを強調し、日本にとつての天皇のご存在の重要性を改めて示した。「靖国参拝問題」でも、「首相に就任しても参拝する」と言明した。

エネルギー政策についても不安定な供給になりがちな再生可能エネルギーに向かうばかりでなく、安定した高品質の電力開発投資が日本の高度な物づくり技術維持、成長産業育成にも必要とした。

この会見はいくつかのメディアがノーカットでYouTubeにアップし、再生回数は他候補の9倍を超えた。

では、他の三候補はどのような政策を掲げているのか。

河野氏は今のところ、新聞・テレビなどオールドメディアの評価では総裁選レースのトップを走っているが、主な主張は、「日本を前に進める」「人に寄り添う政治」「温もりのある社会」など「高校の生徒会長選挙の演説のような」(政治評論家)中身に深みがない。

外務大臣として韓国に厳しいことを言い、行政改革大臣としてはハンコ減らしに歯切れのいい発言をしていたものの、総裁選になると、従来主張していた脱原発や女系天皇容認については態度を一変する前を翻すような言い訳をするなど、当初の「改革者」のイメージが薄くなり、「本音がよく分からない。信用できない」(自民党員)と前評判に陰りが見えてきた。

また、最低保証年金を打ち出したものの「その財源を消費税で増税論者あることが明らかになった。さらに、ここに来て、父洋平氏や実弟が関係する企業が中国との貿易に深いかかりがあるとの事実が表面化し、河野一族と中国共産党との関係が注目されている。

早々と立候補宣言した岸田氏は、総裁を除く党役員の任期を1年連続3期までにするを公約。この発言で親中派の重鎮、二階幹事長おろしに実質成功した。また、岸田派の若手を中心に「新しい日本型の資本主義」成長と分配の好循環、小泉内閣以来の新自由主義経済からの転換、令和版所得倍増、分配機強化など総裁選に向けて準備を進めてきたが、各政策に具体性が欠けるのは否めない。

四度目にしてやっと推薦者20人を集めて立候補できた野田氏は「人口減少を止める」「子どもへの投資」などを主な政策とする。しかし、永田町では「河野候補の票を1票でも減らすための当て馬」地元では「総裁選出馬は」総選挙で何とか生き残るための自己宣伝「(自民党関係者)と全体的に評価が低く、総裁候補としては論外との見方が強い。

の強硬版だ。予算配分権と税務署の捜査権を武器に、省益のため政界を支配する財務省に対する明らかな挑戦でもある。

高市氏は、憲法改正にも当然言及する。特徴的なのは、従来の9条問題ばかりでなく、コロナ禍でまさに実感した緊急事態条項の必要性を国民の生命を守る安全保障問題とからめて、現行憲法の欠陥として訴えていることだ。さらに、気候変動などにより大型化する災害リスクの軽減に政府が思い切った投資をして国民の生命と財産を守る。だけでなく、そこで生まれた土木・建築の新技术などを海外に輸出して外貨も稼ぐ、という一石二鳥的政策だ。

高市氏のリスク管理には民生

各陣営推薦人名簿 (衆参50音順)

●河野 太郎	麻生派：阿部俊子 高橋ひなこ 中西健治(参)
	石破派：平野啓 古川慎久
	細田派：森田弘弘 穴見 陽一
	竹下派：野中厚 山下雄平 宮崎政久
	二階派：伊藤忠彦 岡上昌平
	石原派：石原宏高 坂本哲志 上野 賢一郎
	無党派：武村展英 伊藤達也 島村大 田中良生 園田修光(参)
●岸田 文雄	麻生派：鈴木俊一 山原大志郎 今井絵理子(参) 猪口邦子(参)
	竹下派：鈴木剛人 西銘恒三郎 渡辺博道 二之湯智(参)
	細田派：高木毅 吉野正芳 宮本周司(参) 森雅之(参)
	谷垣G：加藤紘子 本田太郎
	無党派：石田真敏 大野敬太郎 梶山弘志 土屋品子
	岸田派：根本匠 堀内昭子
●高市 早苗	細田派：佐々木紀 高島修一 馳浩 佐藤啓(参)
	山谷えり子(参) 山田宏(参)
	二階派：小林茂樹 小林鷹之 山口社
	竹下派：木原稔 小野田紀美(参)
	無党派：石川昭政 城内実 黄川田仁志 古屋圭司
	無党派：青山繁晴(参) 衛藤晟一(参) 片山さつき(参)
●野田 聖子	二階派：大同敬孝 神谷昇 出畑実 福井照 三木亨
	岩本剛人(参) 清水真人(参) 鶴保謙介(参)
	竹下派：百武公親 石井準一(参) 元米太郎(参) 渡辺猛之(参)
	石原派：宮路拓馬
	無党派：木村弥生 渡海紀三郎 浜田靖一 柘植秀文(参)
	無党派：徳茂雅之(参) 三原じゅん子(参) 山田俊男(参)

# 令和維新の推進は九州から

## 九州ブロックで結成集会開催

自由国民連合(自国連)九州ブロックは8月28日、福岡県久留米市の久留米リサーチパークセンターで、福岡県、熊本県、大分県から約50人の有志を集め、結成集会を開催した。ブロック結成集会は、4月28日自国連設立以来、6月14日の関東ブロックに続いて2ブロック目。(九州ブロック 原田啓二)

集会ではまず、自国連の紹介ビデオが上映された後、松本孝三国家戦略本部長が開会の挨拶、「昨今の混乱する政治情勢の中で、従来の保守勢力にない、正しく強い日本に行くべき道を推進しようとする政治団体として自由国民連合が設立された」と語り、自国連の設立意義と九州ブロック結成集会の重要性を強調した。

続いて、阿部正寿総裁によるビデオメッセージが上映された。同総裁は「日本をむしろ進んでいる最大の要因は共産主義思想であり、



久留米市で行われた九州ブロック結成集会

これを克服するために一人一人が立ち上がって欲しい」と語り、軍備拡張、領土拡大を図る中国共産党と戦う姿勢を示すとともに、中国共産党崩壊に向けて国際的な連携が必要であることを強調した。

また、「令和維新は明治維新に続き、先ず九州からのろしを挙げて欲しい」と述べ、九州ブロックの今後の活躍に期待した。

当日のメインスピーカーとして松永純宗事務総長が登壇。同事務総長は①日本が抱える諸課題と克服②大化の改新、明治維新、令和維新の意味③天民主義の必要性④日本に行くべき基本方針——などについて分かりやすく解説。「戦後、日本人が失った国家意識と愛国心を取り戻し、この混乱を打開するために自由国民連合が結成された」と語り、設立意義を再度強調した。また、設立発起人のひとりである阿部総裁のこれまでの国内外での活動実績とともに自国連設立への命懸けの決意を披露した。

最後に、江頭廣樹九州ブロック長と伊藤大地福岡県支部長に松永事務総長から任命状が授与された。

江頭ブロック長は、九州ブロック結成集会まで尽力された有志の方々に感謝の言葉を述べるとともに、「自国連活動、令和維新を九



集会に参加した松永純宗事務総長(左)と江頭廣樹九州ブロック長

州ブロックから発展させたい」と力強い決意を示した。伊藤支部長は入会案内と今後の活動方針や展望を説明した。

望を説明した。集会後は主催者と参加者の懇親会を行った。参加者から自国連に対する歓迎と期待を寄せる声があり、「これから各地域で集会を開催して欲しい」などと要望があった。

「今回の集会開催に際し、コロナ禍で参加を躊躇される方もいましたが、多くの皆様に自国連結成についてお知らせし、少しでも内容を知っていただき、支持を得ることが出来ました。これを機に九州でも活動を本格的に展開していきます」

集会を準備してきた伊藤支部長は、九州ブロック活動の抱負をことう語った。

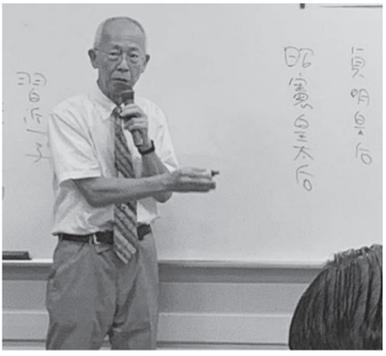
### 忌憚ない意見の交換 意思疎通深化図る

#### 第2回自国連スタッフ研修会

自由国民連合(自国連)の第2回スタッフ研修会が8月21日から3日間の日程で、東京都内のリフレフォーラムで理事局長、支部長ら全国から25人を集めて行われた。スタッフによる自国連の理念、戦略、方針、行動計画の共有とスタッフ間の意思疎通の深化が目的で、阿部正寿総裁の講話をはじめ、有識者の講演、局長らの講話とスタッフ同士による意見交換が行われた。(関東ブロック 小林賢三)

有識者ゲストとして、政治活動家の村田春樹氏と文芸評論家の小川榮太郎氏が講演した。

村田氏は初日、「今さら聞けない皇室のこと」と題して講演、万世一系の皇統の価値と重要性を強調した。



講演する村田春樹氏



講演する小川榮太郎氏



阿部正寿総裁

自由国民連合(自国連)は、去る令和3年4月28日の発足式において、尊皇愛国、反共救国、保守団結、国際連帯の四大目標を定め、これに基づき、現代の危機を乗り越え日本再興のために欠かすことの出来ない目標を定めた。自国連は、この四大目標を更に具体的に、私達が目指すものを明らかにするために、順次小冊子を発行することを決定した。

### 「自国連」の小冊子発刊へ

第一号はこの四大目標の必要性、および自国連が提唱する天民主義の理念を解説するもので、これで「自

日本精神、国家の本質、天皇、皇位継承、憲法、家庭の価値、世界の趨勢、安全保障、海洋国家、国連、グローバルイズム、共生社会、大東亜戦争、教育、国家と宗教の関係、メディア、経済など、我が国の根幹に関わ

る事柄を始めとして、各米・中・韓・露等々の国との外交関係についても概説していきたいと思えます。第二号以後は、それぞれのトピックごとにさらに踏み込んで、歴史的背景から現在の時事問題に至るまで、自国連の考えるところを提示していく予定です。

小冊子は携帯に便利ですが、読み切れる数十ページの小型製本とし、単刀直入、簡潔明快を旨として順次刊行してまいります。勉強に会員拡大にご活用いただけますようご愛用のほど、よろしくお願いたします。

小川氏は最終日に講演し、戦後の日本の民主主義の起源について、昭和天皇が1977年に記者会見で「五箇条の御誓文」を引用されたことについて解説。「それ(五箇条の御誓文を引用すること)が実は、あの詔書の一歩の目的であって、神格とかということ(いわゆる「人間宣言」)は二の問題でした。民主主義を採用されたのは明治天皇であって、日本の民主主義は決して輸入したものではありません。

阿部総裁は、「令和維新」次世代への日本の国家戦略」と題して講話、「日本が抱える課題と克服」に始まり、天民主義を基礎とした「日本の姿、自国連が目指す「令和維新」とは何か、歴史的見地、文明史的見地から見た「世界における日本の立場」などをテーマに内容を説明、自国連の存在と活動の意義を力説した。

本部スタッフからは、磯田道男教育局長が近日発行する予定の自国連の「小冊子」について解説したほか、松本孝三国家戦略本部長、小野寺敬一情宣局長が過去から現在の主な政治運動の推移と現在の中国を中心とした国際情勢について講義した。

阿部総裁は、「令和維新」次世代への日本の国家戦略」と題して講話、「日本が抱える課題と克服」に始まり、天民主義を基礎とした「日本の姿、自国連が目指す「令和維新」とは何か、歴史的見地、文明史的見地から見た「世界における日本の立場」などをテーマに内容を説明、自国連の存在と活動の意義を力説した。

本部スタッフからは、磯田道男教育局長が近日発行する予定の自国連の「小冊子」について解説したほか、松本孝三国家戦略本部長、小野寺敬一情宣局長が過去から現在の主な政治運動の推移と現在の中国を中心とした国際情勢について講義した。

講演、講話の合間に、スタッフ全員参加によるテーマ別の「ディスカッションの時間」が何度も設けられ、参加者は自国連の理念、

**新会員募集**

尊皇愛国志士の皆様のご入会をお待ちしております。

- ◎ 自主独立国家を目指し、自主憲法を制定しよう!
- ◎ 尖閣・沖縄を護り抜き、竹島、北方領土返還を実現しよう!
- ◎ 尊皇愛国で結束し、反日左翼勢力を一掃しよう!
- ◎ 人類の敵・中国共産党打倒、台湾関係法を制定しよう!

年会費：正会員12,000円、法人会員一口60,000円、特別会員一口100,000円  
問い合わせ：自由国民連合本部 事務局  
〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町2-12-9-301  
TEL 03-6661-7828 FAX 03-6661-7829  
E-mail: jikokuren@gmail.com Youbube: 自国連チャンネル

**『令和維新』**